



つわの

9月定例会

議会だより

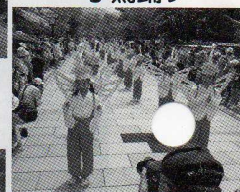
ふるさと島根東西交流体験事業「ワンパクチャレンジ・石見コース」に東部の小学4・5年生90人来町



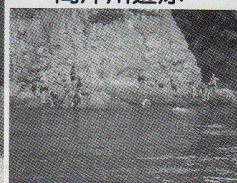
鷺舞



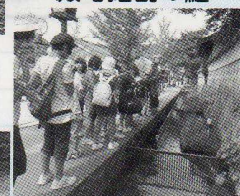
子鷺踊り



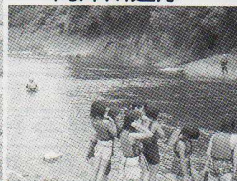
高津川遊泳



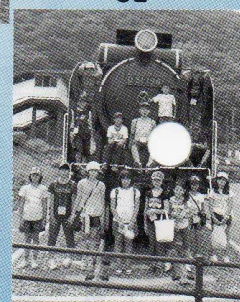
殿町掘割の鯉



高津川遊泳



SL



7月27・28日の2日間「ワンパクチャレンジ・石見コース」に益田市から安来市までの小学4・5年生90人が来町し、27日昼は津和野町の伝統文化や名所旧跡探訪、源氏巻造り等また、夜は2～5人の組で津和野地域3班、日原地域1班に分かれホームスティ、28日は早朝 津和野地域の3班は稲成神社、永明寺、カトリック教会の清掃奉仕、日原地域の1班はお別れ会を行いました。

お昼は道の駅「シルクウェイにちはら」裏の高津川で遊泳を体験しました。

8月4日～6日の「隠岐コース」に日原小学校14人教員3人父兄3人の20人が参加しました、8月23日～25日の「出雲コース」には津和野小学校3人、木部小学校1人が参加し貴重な体験をして来ました。

今月の注目！

滞納の収納強化を図れ(平成21年度決算認定) 2p

請願書2件(総務、経済) 4p

町営住宅改修等11議員が町政を問う(一般質問) 5p

主な請負契約 10p

所管事務調査 12p

No.20 (2010)

平成22年10月20日発行
島根県津和野町議会
Tel 0856-74-0089
E-mail gikai@town.tsuwano.lg.jp

決算審査特別委員会

9月17日、27日～30日（5日間）
一般会計及び特別会計決算について認定



決算審査特別委員会委員

委員長 板垣 敬司
副委員長 青木 克弥
委員 後山 幸次 道信 俊昭
米澤 君文 岡田 克也
三浦 英治

1 一般会計及び特別会計、病院事業会計

単位：円

会計別	歳入総額	歳出総額	差引額	認定の結果
一般会計	8,017,363,060	7,953,365,347	63,997,713	認定（反対・竹内）
特別会計	4,113,147,517	3,950,202,071	162,945,746	
国民健康保険会計	1,175,773,093	1,124,563,997	51,209,096	認定（反対・竹内）
老人保健会計	4,337,977	4,355,897	△ 17,920	認定（全員賛成）
介護保険会計	1,219,400,124	1,194,410,121	24,990,003	認定（全員賛成）
後期高齢者医療会計	289,143,392	287,993,379	1,150,013	認定（反対・竹内）
簡易水道会計	326,278,772	324,546,704	1,732,068	認定（全員賛成）
下水道会計	285,292,308	283,925,261	1,367,047	認定（全員賛成）
農業集落排水会計	4,519,747	4,486,290	33,457	認定（全員賛成）
奨学基金会計	17,781,264	17,781,264	0	認定（全員賛成）
電気通信会計	191,410,022	186,227,327	5,182,695	認定（全員賛成）
診療所会計	100,731,232	80,291,026	20,440,206	認定（全員賛成）
介護老人保健施設事業会計	498,479,866	441,620,505	56,859,361	認定（全員賛成）
総合計	12,130,510,877	11,903,567,418	226,943,459	
病院事業会計				認定（全員賛成）
収益的事業	684,096,434	658,088,790	6,007,644	
資本的事業	32,043,000	33,734,560	△ 1,691,560	

2 一般会計決算 滞納額状況

単位：千円（百万）

項目	年度	平成21年度	平成20年度	比較	
				増減額	比率
地 民 税		25,084	21,921	3,163	14.4
固定資産税		83,179	95,082	△ 11,903	△ 12.5
軽自動車税		1,036	1,352	△ 316	△ 23.4
小 計		109,299	118,355	△ 9,056	△ 7.7
使用料負担金		10,559	11,565	△ 1,026	△ 8.9
児童福祉費負担金		2,277	1,738	539	31.0
生宅使用料		8,282	9,847	△ 1,565	△ 16.9
合 計		119,858	129,940	△ 10,082	△ 7.8

3 特別会計決算 滞納額状況

(単位: 千円)

項 目	年 度	平成21年度	平成20年度	比 較 増 減	
				増 減 額	比 率
国民健康保険税		42,804	49,679	△ 6,875	△ 13.8
介護保険料		2,101	1,937	114	5.7
後期高齢者医療		59	268	△ 209	△ 78
簡易水道事業		8,099	8,050	49	0.6
使用料		8,088	8,039	49	0.6
手数料		11	11	0	0
下水道事業		989	1,238	△ 249	△ 20.1
使用料		859	978	△ 119	△ 12.2
分担金		130	260	△ 130	△ 50.0
電気通信事業		2,666	1,839	827	45.0
使用料		2,616	1,839	777	42.3
分担金		50	0	50	100.0
合 計		56,718	63,061	△ 6,343	△ 10.1

4 職員の時間外勤務状況(選挙事務に関わるものを除く)

(単位: 人・分)

課 名	年度・項目	平成21年度		200時間以上勤務者		
		員数	時間数	200～250時間	251～300時間	301時間以上
総務財政課		11	1,736		1	3
出納室		1	38			
税務住民課		14	720	1		
情報企画課		7	868	1	1	
健康保険課		22	1,523	1		
福祉事務所		9	1,809		1	3
保育所		18	740			
環境生活課		8	238			
農林課		10	1,131	2	1	
商工観光課		5	737			1
建設課		10	1,351	2	2	
教育委員会		40	3,378	1	2	3
計		155	14,269	8	8	10

員数は嘱託職員を含み、全期間休暇・休業中等の者、及び管理職にあたる者を除く。

⑤ 町税の収納状況

(単位: 千円、%)

税 目	平成21年度					平成20年度					比較増減	
	課税額	徴収額	欠損額	未収額	収納率	徴収額	欠損額	未収額	収納率	未収額	収納率	
町民税	315,178	287,438	2,656	25,084	91.2	295,035	1,134	21,921	92.8	3,163	△ 1.6	
固定資産税	517,841	421,074	13,588	83,179	81.3	432,249	7,069	95,082	80.9	△ 11,903	0.4	
軽自動車税	21,786	20,628	122	1,036	94.7	20,358	0	1,352	93.8	△ 316	0.9	
市町村たばこ税	34,077	34,077	0	0	100	36,330	0	0	100	0	0	
入湯税	4,871	4,871	0	0	100	3,431	0	0	100	0	0	
合 計	893,753	768,088	16,366	109,299	85.9	767,433	8,203	118,355	86.2	△ 9,056	△ 0.3	

1. 町民税の収納率は、前年度比1.6ポイント下がり91.2%となっている。
2. 固定資産税収納率は、前年度比0.4ポイント上がって81.3%となっている。
3. 軽自動車税の収納率は、前年度比0.9ポイント上がって94.7%となっている。

【審査の結果及び意見・要望】

- 平成21年度の歳入総額は、80億1,736万3,060円、歳出総額は、79億5,336万5,347円、差引収支は、6,399万7,713円の黒字決算である。
- 平成21年度基金残高は、一般会計基金18億8,188万6千円（対前年比2億9,297万円増）、特別会計4億4,640万7千円（対前年比4,690万4千円減）、土地開発基金3,250万9千円（対前年比13万円増）で総額は、23億6,080万2千円。一方、地方債残高は、総額132億7,232万円（対前年比13億1,724万2千円減）であり、町民1人当たり151万5千円である。
- 町税の滞納総額 1億929万9千円（対前年比905万6千円減）不納欠損総額 1,636万5千円であり、税の公平性の観点からも、最終的には法的手段も駆使し、断固とした徴収姿勢で臨むべきである。
- 職員の時間外勤務は、14,269時間で依然として、課・担当によって格差が生じている。適切な人員配置とともに、課内の連携を強化して労務管理、人事管理の徹底を図るべきである。
- 負担金・補助金については、対象団体の目的や事業内容、決算書等を精査して適正な見直しを図り、費用対効果の向上を更に図るべきである。
- 国民健康保険税の滞納額は、4,280万4千円で昨年より687万5千円減少している。
滞納者は、世帯家族を含め受診控えから重大な健康被害につながる懸念がある。収納強化を図る一方で、対象者との相談をより綿密に行うべきである。
- 医療費については、レセプト診断等のデータ分析を徹底すると共に、人間ドック、脳ドック及び特定健診等の受診率向上と保健事業の積極的な取り組みによって、医療費の抑制に努めるべきである。
- 公共下水道年度末現在の加入率は、津和野処理区49.6%、日原処理区82.5%である。
- 公平な提供の観点からも、未加入世帯における告知放送単独加入の検討も含め、加入率増進を図りたい。

請 願 審 査

付託常任委員会	件 名	各常任委員会での審査の 主な内容と結果	本会議での審議		結 果
			採択（賛成）	不採択 反対	
経済常任委員会へ6月議会にて付託	広域基幹林道「笹山山入線」完成に伴う国道9号線アクセス道路早期取り付けに関する請願書	路線上に遺跡がある上、高低差が大きく工事費が膨らむ 国土交通省の認可を得ることが困難。 →→全員反対で不採択	板垣、竹内 道信、青木 川田、小松 米澤 7名	8名	不採択
総務常任委員会へ6月議会にて付託	町民と役場とのトラブルを解決するシステムづくりを求める請願書	国は行政不服審査法を定めている。また町でも各種相談活動に積極的に取り組み住民生活には十分配慮がなされている。 →→全員反対で不採択	京村、竹内 米澤、沖田 4名	11名	不採択

意 見 書

尖閣諸島沖における中国漁船衝突事件に関する意見書

賛成14、反対1（青木）で可決し、
内閣総理大臣 菅 直人他関係機関に提出した。

一般質問

ナラ木を守れ



◎ナラ枯れ問題

小松議員 拡大傾向にあるナラ枯れの被害の分布、被害木の量、害虫の駆除方法は、椎茸原木への影響と対策は。

下森町長 被害が深刻な区域は、日原中学校周辺、豊集落周辺、麓耕周辺、現在調査中ではあるが、昨年272本の5～10倍と予想される。駆除方法は、成虫脱出前の伐倒駆除やチップ化等、他にも多々あるので原木への影響はないと思われる。今後、必要があれば下瀬山町有林のクヌギを伐採し、原木として供給する。

◎重要・簡易の別

小松 町の補助事業に基づき補助金の交付申請を行ったところ、交付決定が「公印省略」で送られてきた。町の発送する文書で重要なものと軽易なものとの区別はいかに。

町長 日常業務において、重要な文書と軽易な文書との線引きは明確にはしていない。事務連絡的なものについては軽易なものとして公印を省略することがある。補助金交付

小松 洋司 議員

決定書や金銭に係るものなど、許認可に係るものについては押印が必要である。今後の事務処理においては内部統一を図り細心の注意を心がけたい。

◎はやぶさ公開

小松 「はやぶさ」の全国公開公募に日原文台も応募し、「はやぶさ」がもたらした感動を地域の方々にも提供してもらいたい。

町長 公開のための規定をクリアできるか、現場や予算措置等の対応が可能かどうか前向きに検討する。

◎電子黒板等の利用状況

小松 各小中学校の電子黒板等の利用状況は。

齋藤教育長 小学校において国語では漢字や言葉の指導、社会や理科ではデジタル掛図、算数では平均・単位量、外国語活動では英語ノートやデジタル掛図など、中学校では英語のデジタル教科書、地理のデジタル掛図、数学では数学シミュレーションソフトなどを利用した授業を行っている。

A E D（自動体外式除細動器）



◎A E D

後山議員 町内の設置場所、台数、夜間使用可能な場所、電池補充点検管理、町民への周知はどうか。

下森町長 益田消防本部が作成したマップが設置場所に備え付けてある。台数は23箇所26台で点検は業者から連絡があり自主的に取り替える。リース分は業者が点検をする。町民には広報やケーブルテレビ等で周知を図る。

◎緊急通報装置貸出状況は

後山 両地域の貸出台数と、協力員の3人の内1人は益田広域消防本部または在宅介護支援センターとあるが第1を益田消防本部とし、第2を介護支援センターとされ、第3に民間協力員1人にされた。

町長 両地区とも2人の協力員を設けている。第1報時、第1協力員へ連絡し、つながらない場合、第2協力員へ連絡する体制をとっている。

後山 幸次 議員

現状でいく。

◎広報つわの

後山 徳川夢声の句碑が新しくなったと掲載されているが、案内標識柱ではないか。他にも句碑があると載っているが、どのような俳句が彫り込んであるのか、また場所は何か。

町長 指摘のとおり句碑ではなく案内標識柱で内部の原稿確認が不十分であった。日原町に1箇所では他にはない。

◎表彰者の公報掲載

後山 春の叙勲の自治功労で旭日雙光章受章の中島巖氏、消防功労章竹内實氏、教育功労章和田金重氏が紹介されていない。最終チェックは町長であるが、紹介されない理由について。

町長 行政内部連携による原稿作成の徹底チェック体制のミスで、今一度改善を行い、今後功績のあった方々の広報掲載は引き続き行っていく。

常に現状の把握を



青木 克弥 議員

◎平成23年度予算は

青木議員 新町長として初めて編成された予算に基づいて、様々な取り組みが、新しい機構の中で実施されているが、その現状を踏まえて次のことについて問う。

1. 的確に予算執行するため組織体制はどの様になっているか。

2. 現時点における、来年度予算編成上の検討事項は何か。

3. 平成23年度予算編成の基本的な方向と、主な具体案について問う。

下森町長 職員の怪我、疾病等による休職及び、災害対応による事務負担の増大により、更なる改革が思い通りに進めることが出来ていない。的確な予算執行に向けた組織作りを早急に行う。

また、国の交付税の方針が示されていない現時点では、平成23年度の基本的な方向と具体案を示すことは出来ない。

い。

◎高齢者福祉は

青木 高齢者福祉対策としての最も大きな現状での課題は何か。

町長 介護予防関係事業に追われ現状の把握、ケアマネジメントが十分でなく、現在の職員体制の検討が必要である。

青木 包括支援センターは、関係機関・団体との情報の共有をするため何をしているのか。

町長 日常生活圏毎に開催されている地域ケアマネ会議での情報交換を行っている。定期的に、民生委員や、益田圏域での情報交換を行っている。

青木 高齢者福祉対策を効率的に推進するための仕組みについて問う。

町長 現状を正確に把握した上で、様々な関係機関との連携の充実と地域包括センターの整備が必要である。

遊休施設、不要施設の活用策と整理を急げ



沖田 田守 議員

◎元シルク染め織館

沖田議員 この施設は、旧日原町時代の「シルクの里づくり事業」の執政の流れの中で建設された施設である。数年前に閉館となり、再活用が検討されてきたが、今回高津川流域の拠点施設として位置づけ、漁協に管理を依頼することと、協議が進んでいると聞くが、誠に結構なことと考える。進捗状況を問う。

下森町長 「高津川」をテーマとした地域資源の活用機能を備えた利用計画を検討してきた中で、高津川漁協を指定管理者として運営する方向で協議をしている。先般、同組合より詳細な利用計画と概算経費が示され、鮎、モクスカ二などの高付加価値化を目指した、漁協としての今後の事業展開への意気込みを感じている。町として、この計画を地域経済への波及や、「道の駅」と連携した新たな魅力づくりとして、早期実現したいと考えている。ただ、事業費

が高額となることから、水産業・地域振興策など多方面からの財源策と、町と漁協の負担区分について、引き続き協議を進める。

◎旧林泉寮（シルク交流館）

沖田 この施設もシルク染め織館廃止とともに、現在廃墟と化し、周辺住民、日原診療所前でもあり、草ぼうぼう荒れ放題の状況は、誠に不快感を与える。早期に再活用を含め対処を求める。

町長 シルク染め織館とセツトで検討しているが、今度再利用に至っていない。ＩＴ希望者や農業体験者等の滞在先を検討している。

沖田 関連として、旧日原中学校寄宿舎、旧国民宿舎（青野山荘）の解体整理を求める。
町長 現段階では難しい。財源を模索している。

(その他の質問)

道の駅にグランドゴルフ場の整備、公設結婚相談所の設置を提案した。

町財政と地域振興



岡田 克也 議員

◎津和野町の財政

岡田議員 国勢調査の人口等

を用いて、交付税が算出されるが、5年前の調査と比べて、人口は大幅減であるが、どのような予測をされているのか。徹底した歳出のスリム化を行い、産業振興や定住促進、医療の充実等に財源を集中的に使い、町の活性化を図るべきではないか。

下森町長 人口減少が明白な

本町にとって、町財政に大きな影響を与える交付税の動向を危惧する。県町村会と連携し、大きな影響がないよう国へ働きかけを行っている。町の活性化を実現するために更なる歳出のスリム化を行い、改革のメスを深く入れる意を決したいと考えている。歳入強化対策も重要である。町税等の収納率が県下市町村ワースト1である。町民の皆様は納税に対するご理解と協力をお願いしたい。

岡田 滞納は厳しい町の経済状況を表していると思うが、少ない収入等から納税される

方も多い。収納強化対策は何か。

町長 温かみを持って話し合い理解を得たい。心痛ではあるが、悪質な場合は差し押さえ等、強い態度で臨む。

◎学校再編後の地域振興

岡田 子どもがたくさんの同

級生と一緒に勉強ができることを今から楽しみにしていると思う。子ども同士が切磋琢磨して育つことの大切さを思う。反面、地域活力の衰退を懸念する声もある。学校再編計画の進捗状況、閉校後の校舎等活用方法、振興策を尋ねる。

齋藤教育長 須川小が平成23

年4月に統合で保護者の同意をいただいた。畑迫小、木部中は協議を予定。閉校後の体育施設は地域に開放し、校舎の活用は地域の方と協議したい。

岡田 町長自ら地域に出向き、協議すべきでは。

町長 町長として地元の皆様と一緒に、しっかりと考えて行きたい。

「声」

◎テレビ会議

道信議員 役場職員が会議や

打ち合わせなどで本庁と津和野庁舎を何度も往来する姿をよく見る。これは時間と給料とガソリンの無駄遣いであり、CO2のばらまきだ。

先日の中豪雨の際、災害対策本部が本庁に設置されたため課長クラスは数分の会議のために何度も集められた。その間津和野庁舎は指揮する者が不在だった。もし道路が寸断されたらどうなるのか。

画面とパソコン本体と光ファイバー、スタジオBBという伝達ソフトはすでに備わっており、会議用のカメラは8000円、集合マイクは2万円のものを追加すればすぐにでもテレビ会議はできる。このシステムは「あつたら便利」ではなく「なければならぬ」ものといえるが。

下森町長 実現すべく只今準備中である。

道信 俊昭 議員

◎町民の声

道信 町民の声を行政に届ける方法として、まずは「議会」

があり、旧西町の意見を集約するための「地域審議会」があり、その他の審議会が32、協議会が49もあり、「出前講座」なるものがある。そして、アンケート調査や意見募集が頻繁に行われている。

町長は選挙前に「町をくまなく歩いて町民のつばやきを聞いてきた」とマニフェストで述べている。

ところが、さらに今後、自治会や地域担当制度で地域の声を集めるそう。

いったい誰の声、どの情報を尊重するのか、主体性に欠ける。多すぎる情報は無いのと同じだと私は思うが。

町長 情報はできるだけ集める方針である。

開かれた教育行政で学力向上を



京村 まゆみ 議員

◎島根県学力・学習状況調査
京村議員 県とわが町の結果の比較とそれを踏まえた町の理念と方策は。

齋藤教育長 各学年の教科別平均値の大半は県より下回る。現在の教育理念は、故郷に愛着と誇りを持ち心身ともに健康でたくまし人間の育成だ。調査結果について町内校長会で最低でも平均点以上になるよう指導し、各学校で分析し問題解消の努力をしている。津和野町教育ビジョン策定後は、理念に基づき方策をとる。

京村 県の学力が低い中で更に低いという事か。しかし現場の教員は精一杯指導している。統廃合により県費負担の町教員数は減っていくが、教育力向上のための教員の質と人数をいかに維持するのか。

教育長 加配制度などで教員数維持に努める。

京村 2月に視察された五ヶ瀬町は独自のビジョンに基づいた実践で、宮崎県学力調査でトッ

プに躍進した。そのひとつの柱で東京大学が開発した協調学習の共同実践の誘いを受けたそうだが、学力向上にも、町教育行政を開かれたものにするにも大きなチャンスだ。是非取り入れようか。

教育長 資料を見て検討する。

◎保育の質の向上

京村 プール事故から1年。日常の保育方針共有や職員研修の具体的取り組み、今後のわが町の保育体制をどう考えるか。

町長 危機管理要領を作成して全職員へ配布し、園長を通じて伝達指示している。また、津和野町立保育所のあり方検討委員会を設置した。そこでの答申を基に早急に方針を定め実行していきたい。

京村 保育はチーム力が大切だ。出入りする臨時やパート職員とも共有すべき。また教育ビジョンとのつながりは。

右田福祉事務所長 今後当然考えていく。

米価暴落の影響を受けた生産者に支援を



竹内 志津子 議員

◎米価暴落対策について
竹内議員 町内で生産されている米価に対する農協の概算はいくらか。米価暴落の影響を受けた生産者の救済策を考えているか。津和野町の農業再生をどのように図るのか。

下森町長 今年産概算金（水稻仮渡金）はコシヒカリ一等で米で5、350円（30キロ）昨年産比1、050円（19%）の減額。ヘルシー米の差額も同額。きぬむすめ5、100円、ハナエチゼン5、000円で各900円の減額。戸別所得保障モデル対策で、10アール当たり15、000円の交付金と米価下落の場合は追加補てん措置が取られるので町としての救済策は考えていない。農業再生については、平成19年に、農業担い手支援センターを設置し諸事業を展開している。農業振興係で西いわみヘルシー元気米生産振興のための土づくり補助事業、山葵、山菜、里芋等地域

特産品の生産・販売の支援、農地流動化の支援などを実施している。

◎所在不明高齢者

竹内 津和野町では100歳以上の所在不明者が54人となっているが、どのような調査か。年金支払いはどうなっているか。今後このような高齢者を出さないための取り組みは。

町長 法務局からの照会により調査したもの。戸籍の附票に住所の記載がなく、100歳未満の同籍者がいない人の数値である。戦災・事変にける死亡や海外移住後の死亡などで届け出未済の可能性が考えられるが、住所の記載がないため所在や生死を確認することは極めて難しい。住所記載が無いので年金は支払われない。今後とも、関係部署と連携をとりつつ、実態に沿った戸籍事務と住民基本台帳事務を進めていきたい。

消防団勧誘、町内のAED、観光関係、風呂屋井堰



米澤 宏文 議員

◎役場新職員消防団入団勧誘

米澤議員 「町と地域を守る」消防団の入団勧誘、合併後は無いと聞く。町で非常事態発生時に即時に100人200人を動員し水火災や搜索活動が出来るのは消防団。津和野地域の女性団員は15年間入団者無、男女とも入団で地域の団員、町民との接触で円滑な役場業務と信頼関係も更に深まると思うがどうか。

下森町長 主たる地域防災力の消防団も過疎化等で確保が困難。合併後も勧誘は継続、男性6人入団、他県では女性増加、本町も女性を勧誘する。

◎町内のAED

米澤 町内のAEDは27台、普通救命受講者は3年間で600人以上、設置場所の周知をしてはどうか。日本光電工業製の不具合の点検はしたか、貸出用2台は津和野、日原分遣所に保管を依頼してはどうか。

町長 設置場所は周知したい、日本光電工業製は9台、8月に業者が自主点検し部品の交換等完了、貸出用2台は

両分遣所と協議する。

◎観光客サービスと安全対策

米澤 津和野中心地を一望できる野坂峠展望台のSL撮影ファンと春夏秋冬の景色を楽しむ人の為、視界を狭めている樹木の伐採をしてはどうか。

町長 町も把握、担当課に指示し、地権者の調査をしている。

米澤 町内の山なら枯れ多く、餌不足で熊、猿、猪等、出没頻繁懸念、出動し易い公務員ハンターを結成してはどうか。山中の観光地津和野を動物から守る「猟友会員」減少防止策で免許更新料等の補助、有害鳥獣捕獲奨励金増額はどうか。

町長 公務員ハンター結成は諸般の情勢から困難、猟友会の補助金等効果あるか検討する。

◎鷺原風呂屋井堰の修復は

米澤 事故の概要を側溝流域住民に周知したか、補修工事の時期はいつか。

町長 周知不徹底でお詫びする。応急補修は11月15日以降。

来年度の主な重点施策を今から示せ

◎来年度予算

川田議員 町長は来年度主にどのような事業を重点的に行うのか。具体的に示されたい。

下森町長 国から交付税の方針が示されておらず、交付税がいくらになるかわからないので現時点では見込みを立てることは困難である。予算を考慮せず、来年度に考える重点施策について言うと「定住と健康づくり」である。また、今年度重点的に取り組んでいる施策についても私の任期中に成果が出てくるようにしていく。特に官民協働のまちづくりを構築していくための方策として行政評価制度の構築に取り組んでいるが、来年度も行っていく。歳入の強化策も重点的に取り組む。

川田 次年度予算を構築するために、本町でも「事業仕分け」に取り組むべきではないか。

町長 事業仕分けについては議員時代から私も申し上げてきたことである。今後実施し



川田 剛 議員

ていく行政評価制度の中で、事業仕分けの手法を取り入れる考えがある。

川田 本年度が最終年度になる集中改革プランは踏襲しないのか。

町長 集中改革プランの中で継続していかなければならないものは継続して取り組む。

◎電子自治体に向けて

川田 町長の情報通信技術に対する方針は。

町長 電子申請については「しまね電子サービス」と連携している。本町には情報化推進検討委員会という組織がある。外部専門家との連携をはじめ、重要な課題であると受け止めている。専門的な職員配置や活用策など、今しばらく時間を頂きたい。

(その他の質問)

観光事業の町の方針、子育て環境、文化施設の運営方法等について、町の姿勢を問い、提案した。

定住対策は益田市を中心とした圏域で



板 ^{いた}
垣 ^{がき}
敬 ^{たか}
司 ^し
議員

◎定住自立圏構想

板垣議員 益田市は今年3月26日に中心市宣言をされた。里帰り出産や脳神経外科・精神疾患等の医師確保による地域医療体制の確立や民間事業者等に融資や投資が出来るフアンド形成事業など、圏域での取り組みによる目的達成を図るうえからも早急に具体化すべきだと考えるがどうか。

下森町長 圏域における地域医療体制・維持や高津川流域の資源を活かした取り組みが必要と考える。現在、事務レベルでの協議を始めた段階であり、「定住自立圏形成協定」を締結した後、定住に必要な生活機能を確保するための連携事項を規定。その後、具体的な将来像である「定住自立圏共生ビジョン」の策定をすることになる。平成23年秋頃を目指している。

◎一部事務組合の見直しを

板垣 鹿足郡内には3つの一部事務組合が設置され、それ

ぞれ事業が運営されている。来年度、吉賀町とCATV施設の共同事業が計画され、運営について組合方式が想定されている。行政コストの削減と事務効率のうえから組合を統合すべきである。さらに、

将来の財政負担から民間委託等を検討する考えはないか。

町長 鹿足郡環境衛生組合の規約を改正して、ケーブルテレビ事業部と環境衛生事業部として運用する。名称についても鹿足郡事務組合（いづれも仮称）としたい。他の一部事務組合との統合は平成23年度以降に検討することとしている。

民間委託等については事業内容、推移を見ながら慎重に対応していく。

(その他の質問)

町有財産（シルク染め織館や交流館、農産加工所）の活用について質問した。

総合整備計画・請負計画

○辺地に係る公共的施設の総合整備計画の策定

町道高嶺線（横道）改良工事
平成22～26年度

・請負契約

○日原地区消防センター建設工事

請負金額 8662万5千円

請負者 堀建設株式会社

○木質ボイラー設置工事（なごみの里）

請負金額 7822万5千円

請負者 東洋熱工業株式会社

・請負変更

○森村地区下水道管布設工事

契約金額 6898万6千500円

変更額 1155万1千500円

請負者 有限会社ナガヨシ技建

○日原小学校校舎耐震補強・改修工事

契約金額 1億4534万1千円

変更額 2228万2千円

請負者 徳栄建設株式会社

○旧堀氏庭園主屋等保存修理工事

契約金額 2億7640万3千円

変更額 5065万3千円

請負者 大畑建設株式会社

請願の提出について

請願は、町民の皆様の声を町政に反映させるための大切な制度です。

町の仕事などに対して、誰でも町議会に請願を行うことができます。町議会では提出された請願を審査し、その内容が適当と認められる時は採択し、町政に反映されるよう努めています。請願を提出する時は、町議会議員の紹介（1名以上）が必要です。請願書はいつでも受け付けています。議長宛に一通提出してください。様式は左記の通りです。

下記の様式に準じて作成してください。

様式

請願書様式

請 願 書 (表紙)	
津和野町議会議長	年 月 日
〇〇〇〇様	
請願者	
住所※1	
氏名※2 (署名または記名・押印)	
※1 法人の場合はその所在地	
※2 法人の場合はその名称及び代表者名	

(件名)	
〇〇〇について	
1 請願の趣旨	
2 請願の理由	

9月定例補正予算の主なもの

一般会計補正予算（第2号）4億8,827万円を追加し

一般会計抜粋 歳入歳出総額 78億9,280万4千円を可決しました

内 容	補 正 額（千円は切り捨て）
総務費 ・ 住宅用エコ給油機導入補助金	100万円
衛生費 ・ 予防費（予防接種委託料 日本脳炎、インフルエンザ） ・ 斎場費 修繕料（畳表替、障子、便座取り替え等） ・ 工事請負費（火葬炉制御盤修理）	345万円 58万円 157万円
農林水産業費 ・ 農業振興費（風呂屋井堰応急工事委託料等） ・ 林道費（林道管理委託料、県営林道事業負担金）	413万円 458万円
商工費 ・ 商工振興費（津和野町緊急プレミアム商品券） （森鷗外ふるさと津和野づくり事業補助金） ・ 観光費（森鷗外生誕150周年記念負担金）	1,310万円 135万円 100万円
土木費 ・ 地籍調査事業費（一筆地調査委託料等） ・ 道路橋梁総務費（県営工事負担金） ・ 道路維持費（災害工事請負費）	1,201万円 1,371万円 1,349万円
消防費 ・ 災害対策費（津高グラウンド土、水中ポンプ、土嚢等）	124万円
教育費 教育諸費 ・ 青原小学校屋内運動場改築工事設計委託料 ・ スクールバス購入費 ・ 教育諸費（設計管理、スクールバス運転委託料等） ・ 旧堀氏 庭園修復事業費 蔵、門、壁類追加工事 ・ 郷土館費（津和野百景展示用什器、巻物用台）	1,898万円 356万円 1,948万円 3,158万円 272万円
災害復旧費 ・ 農地農業用施設災害復旧費（7月豪雨） ・ 林道災害復旧事業費 ・ 公共土木施設災害復旧費	3億3,023万円

▶7月14日豪雨により冠水した
県道津和野田万川線山入地区



特別会計補正予算を 可決しました

特別会計

内 容	補 正 予 算（千円は切り捨て）	予 算 総 額（千円は切り捨て）
国民健康保険特別会計	358万円	11億4,026万円
介護保険特別会計	932万円	12億3,163万円
簡易水道事業特別会計	208万円	3億235万円
下水道事業特別会計	409万円	3億1,345万円
奨学基金特別会計	69万円	1,622万円
電気通信事業特別会計	3,998万円	2億8,247万円

所管事務調査報告

【経済常任委員会】

「町内の商工業の現状把握」

・津和野町商工会の状況

○プレミアム商品券は各約1億円の売り上げがあり、4～5億円の経済効果があったと推測される。町内の景気低迷を受け、今回再度要望を受けた。

○生活まるごとサービス実証実験は、過疎高齢化社会の課題と商業モデル福祉サービス、交通手段等の課題を得た。

○森鷗外生誕150周年記念事業は、安野光雅先生によるシンボルマークを作成、土産物にシールを貼り、PRして行く。幟旗とペナントを製作。

○夏祭りは、津和野地区でも花火を行い、若い人も多く、活気があった。日原地区の「鮎まつり花火大会」も例年通り盛況であった。

○観光事業では、入込客数は100万人の大会を回復したが、収益面での効果は少なかった。

○「会員意識調査」を行い、意見や提言等いただいた。合併後の

商工会について、支所の存続を要望する意見が強く寄せられた。

・津和野町観光協会の状況

○ユビキタスは、ご利用無料キャンペーンや「津和野グルメ街道」の割引券付きモニターで、利用拡大を図っている。

○インバウンド事業として、外国人対応のインターネットを設置した。英語の対策を図る。

○エコツーリズム事業は、都市部で注目されており、安蔵寺山や高津川、天文台を中心とした推進を図っている。

○協会の社会的自立を図るため、社団法人化へ向け協議中。民業を圧迫しない収益の強化、経営基盤の確立を目指す。

・主な調査意見

○観光協会に若く優秀な2名の職員が採用され、創造的な観光が生み出されている。1名は総合旅行業務取扱管理者であり、1名はコンピュータに堪能である。将来、2名の職員が継続雇用されることで、観光の発展充実が図れることが重要であると考ええる。

○商工会、観光協会ともに、会員減少の対策が必要と考える。

【文教民生常任委員会】

「地域医療・福祉の現況」中間報告

・主な調査の概要

○益田圏域の病院勤務医は、平成18年対比、松江圏域は100人増加、出雲圏域は8人増加、益田圏域は17人減少である。益田圏域は、平成14年に102人いた医師が、平成21年度には72人となり、7年間で30人が減少した。

○医師の偏在化による医師不足により、中山間地の病院は、医師、看護師等の過酷な勤務条件の中でのがんばりに支えられている。

○県では地域医療再生計画を作成し、21～25年度まで総額50億円の事業費を投資する。

・主な問題点

○医師、看護師の増員対策、労働条件等の整備が必要である。

○救急や夜間診療は現在の人員体制では限界であり、住民の救急に対する理解が必要である。

○医師や看護師等の増員のため、住宅等の勤務環境の整備が必要。

○医師が1名増員できたので、看護師の増員ができれば、療養病床の再開ができる。

■編集後記

「露と落ち 露と消えにし我が身かな 浪速のことは夢のまた夢」▼豊臣秀吉の辞世の句である。太閤と呼ばれた秀吉が、通夜も葬儀も行わず埋葬された。当時は死んだことさえ隠されたという。▼全国で生存しているはずの無い方の戸籍が見つかった。まさか平成のこの時代に生きていることになっていようとは思わなかっただろう。▼平成24年1月19日に 外生誕150周年を迎える。今年から24年まで記念事業が展開され、様々な企画が予定されている。生きていれば今年48歳になるわけだが、まさか戸籍には残っていないだろう。▼鷗外は、辞世の句ではないが「余八石見人森林太郎トシテ死セント欲ス」から始まる遺言書を残している。▼今もこの町に息づく先人を思えば津和野小学校校歌「この誉れあるよき町の あとつぎの子の我らなり」が身に染みる。

川田 剛